

鮎

TAKUSUI

7

2005年 July

No.585



ourhour フリースペース
77・77

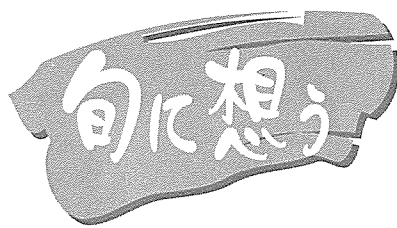
<JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・JFぎよさい兵庫>

三団体合同通常総会を開催

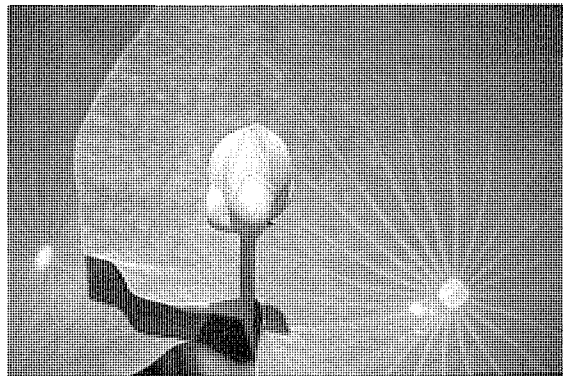
うちの漁協! JF東由良町

CONTENTS

- 2 旬に想う
漱石は何人いたか
表紙の写真
- 3 フリースペース our hour
3団体合同通常総会を開催
- 6 兵庫JCC通信
- 6 行事予定
- 7 第6回 全国カキ・サミット兵庫大会開催
- 8 ウチの漁協
JF東由良町



写真と文遊才子

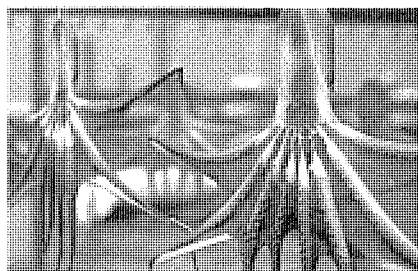


漱石は何人いたか

◆西晋の孫楚という男。隱遁暮らしを望んで「石に枕し流れに漱く自然の暮らしがしたい」と言うべき所を、「流れに枕し石に漱く」と言い誤つてしまふ。そんな事は実際に出来ないと周囲から指摘されたが、孫楚は「石に漱くは歯を磨くため、流れに枕するは耳を洗うため」と言い張り、誤つた事を認めずに意地を通した。そんな故事から「枕流漱石」の言葉が生れる。夏目漱石のペンネームは、此れに由来するのは良く知られているが、この雅号を名乗る人は複数いるそうだ。研究者によれば、俳人が伊勢和泉・出雲に各一人と、京都に漱石が一人、画家で漱石が一人おり、探せば何人出てくるか判らないという。夏目漱石自身、陳腐で俗気に過ぎた名前だといったが、事実のようである。

◆正岡子規も《漱石》を名乗った事があり、のちに「漱石ハ友人ノ仮名ト変セリ」と記している。此処から雅号を譲り受けた説が生まれたらしい。子規と漱石は高校時代の同級生で、二人が親しくなつた頃、子規は自作「七草集」を友人達に回覧し批評を求めた。友人らは批評を書き、署名に「笑天道士」や「梨の屋つぶて」と戯けた号を記し、夏目金之助も《漱石》を初めて使う。一種のフザケの積もりが、生涯の筆名になつた。子規と漱石は厚い友情で結ばれ、子規から俳句を作るよう薦められる。英国へ留学した漱石は、病床から俳句を慰めるため、また何時も大将でいたい友人に、わざと下手な句を送り心的傾向を満足させようとしたようだ。そして外国生活を綴つた手紙を送る。それは「倫敦消息」と名付けられ、雑

表紙の写真



毎年この時期になると、瀬戸内海側の各浜では、「真夏のタコ揚げ」が風物詩になっております。各浜で水揚げされたタコを写真の様に天日で干している風景がそれです。漁家ではこの干しタコを使い、その家独自のタコ飯が作られます。漁師さんのパワー源の一つとなっております。(指導部)

誌「ホトトギス」に掲載される。

◆その頃、子規の病氣は重篤情況にあり、必死の力を絞り再度手紙を書いて欲しいと懇願するが、漱石は忙しさを理由に手紙は書けないと返事する。明治三十五年、子規は世を去つた。その絶句「をと、ひのへちまの水も取らざりき」。英国で訃報に接した漱石は、手紙を書かなかつたのを永く悔やむ。二人の手紙のやり取りは、実にマメに行われている。漱石の手紙は、明治二十二年から三十四年までに六十通が現存する。子規が記録と保存に熱心だったからで、子規の漱石への手紙は殆ど残っていない。「手向くべき線香も無くて暮れの秋」は漱石の追悼句である。漱石にとって、子規は単なる《親友》でなく《心友》であったという。

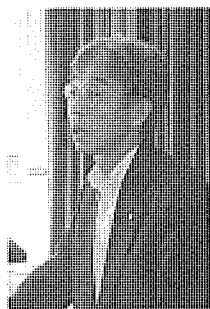
◆明治三十八年、雑誌「ホトトギス」に小説「吾輩ハ猫デアル」が掲載される。「吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生まれたか頃と見當がつかぬ。」漱石研究家は、これは漱石自身の幼少の生活事情を、迷い込んだ猫の口を借りて語つたものだといふ。漱石は、生まれて直ぐに養子に出されたり、養父母の離婚で生家へ戻つたり、家督相続で苗字が変わつたりした。それを猫に語らせているのだと。そう聞くと、ナルホドと思える筋立てに見えてきたりするのである。当初、読み切りを予定していたものが、俳味に富んだおかしみが評判となり、書き継ぎ書き継いで十二回の連載になる。漱石の名は広く知れ渡る。小説家夏目漱石の誕生である。

JF兵庫漁連
JF兵庫信漁連
JFぎよさい兵庫

三団体合同通常総会を開催

去る六月二十一日(火)、県立水産会館において、JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・JFぎよさい兵庫の3団体による合同通常総会が開催されました。各団体とも議事は滞りなく進行し、全議案は原案通り可決承認されました。

JF兵庫漁連



丸漁連会長は通常総会の開催にあたり、「親愛にして敬慕なる六十一会員の皆様、また、斉藤副知事を始めとして県関係各位並びに、系統団体の皆様、大変多くの方々の御参会を頂いての通常総会となりましたこと心より感謝申し上げますと共に、私儀ではありますが、昨年の総会におきまして県漁連会長就任の命を受け、無事大過なく丸1年を迎えることとなりました。これも一重に皆様方のご協力のおかげであり、重ね重ねお礼申し上げます。

総会と言いますと通常は組織の経営がいろんな形で黒字か赤字か？また、皆さんが思っておられることに比べられているのか？私達が洗礼を受けるという所であり、緊張し、特別な場であると思っております。その中で黒字は伸ばし、赤字はいかに解消していくのか、皆さんのお知恵と私達の施策で解消していくというのが本来の通常総会であり、それは意義あることであると思っております。

しかし、私はもっと大切なことがあるのではないかと常々考えております。

水産会館には大きなコンパスがございます。そのコンパスに沿って私達が何をしたらかが問題になってきます。そのコンパスと言っているのは船にあるコンパスではありません。目に見えないところにコンパスが備わっております。8千名の漁師が幸せという所に向いておるコンパスでございます。そのコンパスどおり、私達が幸せな施策をしたか、本日胸にじっと手を当てて、私達も反省し、初心に戻つてこのことをやったかどうか？それは勿論、洗礼は受けませんが自問自答、答えを出さないとはいけません。

また、間違つておれば皆さんのご指導ご指示ご鞭撻により、幸せの方向に行くように修正しなくてはなりません。私も皆さんが幸せの方向に向くように頑張りたいと思います。その特別なはじめをつける日であると思っております。各論も総論も併せて本日は忌憚のないご意見を賜りながら幸せに向けて出発していただく。かように考えておる次第であります。この総会が過ぎますというイベントがございます。七月一日にはカキサミットがございます。西播におけるところのカキを全国に発信しなくてはなりません。十九日には組合長会議があり、また本年は兵庫で全国漁港大会が開催され、全国から漁業者が集まっております。全国に兵庫漁連、兵庫漁民、ここにあり、水産会館、ここにありと示したく考えております。最後になりましたが、今後益々漁協が振興するように努力する所存ですので、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。」と挨拶されました。

なり、浜(県下八千人の漁民ならびに六十丁F)の負託に込めるための「漁民のための漁民の組織」をスローガンに掲げました。

そのため、昭和五十八年以来的の機構を抜本的に見直し、職員の「現場第一主義への意識改革」と「やりがいの創造」ならびに「使命を果たせる合理的な機構」と「無理無駄の排除」等を実現するべく、七月に機構改革を行い、また、浜の声を反映するために石油事業、資材事業、のり海藻事業および流通加工事業の各経済部門に審議会を設置するとともに、新たな課題への対応と将来のビジョンを構築するため資源環境保全委員会、JF組織強化委員会ならびに「二百海里問題対策本部の三委員会を再編いたしました。」

このような取り組みを進めている中、購買事業では燃油や漁業用資材が高騰しましたが、値上げ幅の圧縮や時期の延期を行い、漁業者負担の軽減と安定供給に努めました。販売事業においても、のりの輸入問題とともに輸入水産物の急増が魚価安に拍車をかけ、抜本的な流通改革と漁業経営改善が求められる中、十七年度に向け、新たなアプローチを検討しています。また、日韓暫定水域内での韓国船による無秩序操業をはじめ「二百海里問題対策においては民間協議が硬化化しています。JF組織強化委員会では県下二漁協構想の見直しが決まり、JFグループ全体を捉えた実現可能な構想づくりを進めています。

事業計画

平成十七年度の事業計画は「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」をテーマに三つの基本方針を定め、本会の事業方針を以下の基本的な課題解決と位置づけ、その達成に向けて各事業活動を実施します。

◆基本方針

- 一 漁村を担う人づくりをすすめます。
- 二 活力ある組織づくりに努めます。

事業概要

平成十六年度の通常総会において新しい執行体制と

③青く豊かな海づくりを推進します。

◆事業運営方針

①資源を豊かに育む海づくりをめざして運動を展開します。

②漁家経営の健全化に取り組みます。

③漁協の構築を目指した本県JFグループ運動方針(仮称)を策定し、合併等組織強化を推進します。

④協同組合の意義を再認識し、JF・JFグループの存在価値を高める活動を推進します。

⑤会員・所属員の期待に応えることのできる組織への変革をめざし、事業・経営改革に取り組みます。



吉野信漁連会長
 は通常総会の開催に
 あたり、「この二年間、
 信漁連に対しまして
 会員の皆様、また各
 方面からのご協力と
 ご努力を賜りましたことをご
 礼申しあげます。

ペイオフが全面解禁され、非常に厳しい金融情勢の中、漁業者の皆様の努力もございましたが、漁業種類によっては非常に厳しい年でもあったと思えます。また様々な災害もございました。その中で私どもが金融として、本当に皆様のご期待に応えたかと、この二年間を振り返り考えているところでございます。そのような事を顧みまされた時に、年度末における貯金残高につきましては、前年度以上の実績を確保できましたことは、ひとえに皆様の信漁連に対する信頼の証しだと感謝いたします。

おかげさまで、平成十六年度決算も剩

余金を計上することができました。また金融機関の健全性を示す自己資本比率も10%以上を維持することができ、健全性も確保されてきたことは、会員皆様のご協力の賜であり、その点についても後ほど事業報告させていただきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

平成十七年度につきましては、引続き厳しい金融情勢ではありますが、「安心安全」を基本とし、皆様方に安心してご利用していただける業務運営を行い、皆様方との対話を通じて負託に応えてまいりたいと思っております。また県下漁業系統と一体となつて、漁業経営を万全のものにしていかなければならないと考えております。そのために、全国的にJFマリンバンク基本方針に基づく「県二信用事業責任体制」という、二つの県が二つの責任体制の中で信用事業を守っていくという運動が進められており、本年度はそれを目標とした「県二信用事業統合体」を完成させ、皆様に信頼される信用事業の運営を行っていく所存ですので、よろしくご協力をお願い申し上げます。」と挨拶されました。

事業概要

平成十六年度は、貯金については期末残高目標七百五億九千二百万円を設定して事業に取り組みました。年度中の貯金残高の推移については、年度前半の各漁種における極端な水揚げ不振、夏から秋にかけて三度にわたる台風被害の影響等により、貯金の流出に歯止めがかからず、非常に厳しい状況でありましたが、年度後半に至って海苔養殖漁業・船曳網漁業・沖合底曳網漁業の各海区での主幹漁業が好漁となり、年度末残高七百十億六千五百万円、対前年度松残高を十億二千二百万円増という結果になりました。また、貸出におきましては重油流出事故及び台風関連の災害資金を融資するとともに、海苔養殖業者及び船曳網漁業者に対する近代化資金と設

備資金について約定償還の延長を行う等、漁業経営の安定を図るための必要な緊急避難的措置を講じました。

系統信用事業につきましては、漁協系統信用事業のセーフティネットの構築と事業組織の効率化及び健全化を図るため、「農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律」(改正再編強化法)に基づき、関係漁協と協議しました。

事業計画

平成十七度は、「漁業者等利用者にとって安全安心な貯金の預入先であること、漁業者等利用者が必要とする資金について低利で安定的に供給することが本会の最大の役割」であることを再認識し、真に漁業者等利用者の負託に応える事業を行う「安心・安全のJFマリンバンク」構築のため、長期展望に立ち経営基盤の強化を図ってまいります。

①営業力の強化

・特別推進運動の実施。運動名「もつと知ってJFマリンバンク運動」

・会員および系統諸団体との連携強化
 ・役員総セールの実施

②組織・体制の再構築

・業務運営体制の見直し、店舗構成の再編、二県信用事業責任体制の完成。

③経営の健全化と質の向上

・財務健全性の確保、リスク管理システムの構築。

④コンプライアンス態勢等の強化

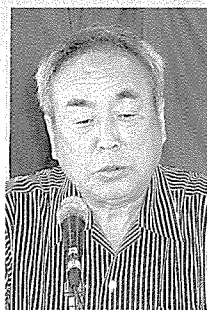
・コンプライアンス(法令等遵守)態勢の強化を図り、盗難等不祥事の未然防止を徹底します。

⑤監査の充実

・監事・監査部の連携により、法令遵守や内部管理態

勢等の適切性、有効性について検証を行うとともに、問題点の発見、指摘、また、改善方法の提言により、安心・安全が確保された業務の円滑化を図ることができるよう監査を実施いたします。

「つぎよさい兵庫」



通常総会の開会にあたり、吉岡組合長は「平成十六年度の事業状況は、燃油の高騰や資源の減少、魚価の低迷など漁

業環境が厳しく、漁家経営が苦しい中での加入推進となり、目標達成には到りませんでした。したが、制度の趣旨についての理解をいただき、のり特定養殖共済で新規七漁協の加入が実現したことなどから、前年度実績を二億五千万円上回る二億九千万円の加入実績となりました。

また、新設された地域共済の二年目として、但馬地区で、休漁補償共済の推進を行った結果、初年度を二億三千万円上回る四億四千万円の加入実績となりました。

これにより、漁業共済事業と地域共済事業を合わせると、二百六億円の加入となり、北海道、鹿児島に次いで、全国三位の加入実績となりました。

皆様方のご支援、ご協力に對しまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

一方支払い関係では、内海地区のノリ養殖業で六億円、但馬地区の底曳網漁業で二億円、また、内海、但馬地区の小型漁船漁業（トンン未満）で二億四千万円など、合計で九億七千万円の過去最高の支払となり、依然として厳しい漁業環境の中、漁業経営安定に寄与できた

の確信いたしております。

本年度におきましても、イワシシラスの回遊不振が続いていることや、また、本年四月にノリの色落ち被害が発生したことにより、のり特定養殖共済で三億円ほどの支払をこの年六月二十七日にも予定しており、漁業経営の維持安定に少なからず役立つものと思われませんが、未加入漁協や未加入漁業種類があり、災害対策としての機能が十分に発揮できていないのが現状です。不測の事態にあっても、漁業経営の支えとなるべく、今後とも全力で加入推進に取り組んで参りますので、ご理解の上、ご支援、ご協力を賜りたく、切にお願い申し上げます。」と挨拶されました。

事業概要

平成十六年度は、「新ぎよさい総加入運動21」全国運動の三年目として、引続き「守るぞ経営「ぎよさい」新時代」をスローガンに漁業者一人ひとりにぎよさいを浸透させることを目標として、漁業共済事業で二百六億三千万円、地域共済事業で三億百万円の加入計画を立て、新規加入の拡大と契約割合の引き上げによる補償力の向上を目指して、制度の普及拡大に取り組みしました。

その結果、引き続き厳しい漁業環境の中での推進活動になり、漁業共済事業においては加入計画を下回る二百億九千四百万円の加入実績となり目標を達成するには到りませんでした。前年度実績に對しては二億五千八百万円上回る百・三パーセントの伸長率となりました。また、地域共済においても前年度を億三千七百万円上回る百四十五パーセントの伸長率となりました。これは、漁獲不振に伴う補償水準の低下等により継続契約の減少があったものの、新規契約の実現等があったことによるものです。

一方、支払実績では、漁業共済事業においてはのり養殖業の色落ち被害の発生等で前年度を四億二千三百万円上回る九億六千九百万円の支払実績となり、また、地域共済事業では八百萬円の支払で、両事業を合わせた支払総額は九億七千七百万円となり、平成五年度の支払額である九億六千九百万円を上回る過去最高の支払となりました。

以上の結果、本年度の事業部門の収支は二千六百一十八萬円の赤字、管理部門では千四百六十九萬円の赤字となり、総合収支で千五百五十九萬円の損失となりました。

事業計画

本年度は、平成十四年度から取り組んできた「新ぎよさい総加入運動21」全国運動の総仕上げの年とし所期の目標達成に向け組織「丸」となつて取り組み、より一層の制度の定着と高度利用を図るべく最大限の努力を傾注します。この運動を通じて継続契約の確保はもとより、新規加入の拡大と契約割合の引き上げによる補償力の向上を目指します。

本年度の加入目標共済金額を、漁業共済事業二百一億九千万円、地域共済事業四億四千万円百万円と設定します。

◆主な施策

- ①「新ぎよさい総加入運動21」最終年度の取り組み
- ②中央・地方的推進活動の展開
- ③系統各団体・行政庁との連携
- ④広報活動の活発な展開
- ⑤漁業共済掛金助成等事業の活用
- ⑥研修活動の充実強化と組織の活性化
- ⑦漁業共済団体の収支改善

JA兵庫六甲 ネットで確定申告支援

ITをフルに活用して管内組合員とのコミュニケーションを図る一環として成果を挙げているのが、インターネットを利用した確定申告の支援サービス事業である。

この「Web確定申告システム」は、JA兵庫六甲のホームページに開設した組合員向けサイト「ろくちゃんネット」の無料サービスコンテンツの一つ。同JAに利用を申し込むとIDとパスワードが発行され、同システムにログインすれば自宅のパソコンからも操作が可能で、2002年度分の申告から導入、04年度申告で丸3年が経過した。

合併前の旧9JAでも、同様のサービスをそれぞれ行っていたが、合併を契機に現在のシステムに一元化した。これによって、どの地域の組合員も同じサービスを受けられるようになったことが導入のメリットである。また、家族構成を入力するだけで控除額が計算できたり、減価償却資産の登録を行えばデータが蓄積され、毎年の減価償却費の計算が簡単にできるなど、さまざまな申告を手助けする機能がある。そのため、手作業に比べてミスも少なく、時間も短縮できる。

同システムでは、JA本店のサーバーに、(株)Xリマチの最新バージョンをプログラムしてある。最近の頻繁な税制改定にも対応し、自動更新やメンテナンスもサーバーで一括管理しているため、アクセスすれば常に最新のシステムを利用できる仕組みになっており、容易に確定申告に備えることができると利用者からも大好評である。

これまでの利用者は既に1万1000人以上にも達している



<http://www.zenchu-ja.org/>

第55回通常総会を開催

6月21日(火)兵庫県民会館において兵庫県生協連第55回通常総会を開催し、代議員数39名中名、37名が出席(実出席名28名、書面議決9名)しました。

冒頭、中川副会長理事が挨拶をおこない、続いて、来賓を代表して兵庫県県政政策部長・辻井博様、神戸市活文化観光局長・町本欣信様、兵庫県農業協同組合中央会専務理事・三木久和様、日本生協連関西地連事務局長・小嶋幹雄様からご祝辞をいただきました。

その後、議事に入り、西田専務理事が04年度活動報告、05年度活動計画(案)等、提案を行ないました。また、会員生協活動報告としてコープこうべ・竹内恵子代議員がコープ・ユニセフスマトラ沖地震・津波復興支援募金キャンペーンの取組みについて報告、続いて、たじま医療生協・園田昌弘代議員から、台風23号の被災による支援へのお礼と、生協間の協同に支えられながら実施した地域総訪問活動での地域住民の健康を守る運動、4月からスタートした介護事業の取り組み報告と決意を発表いただきました。大学生協からは、園田学園女子大学生協・船津守弘代議員が、学生組合員のキャリアアップ支援について、講座の運営を大学生協神戸事業連合の大学生協キャリアアップセンターの支援をいただき受講者数、合格率のアップにつながった事例などを報告いただき、共済生協から尼崎市民共済生協・中村義人代議員が、昨年取り組んだ交通傷害共済の尼崎市以外(尼崎市近隣都市)の組合員への加入促進運動について、また中期経営計画づくりへの組合員参画、組合員ニーズの把握の必要性など、今後の課題についてもご報告いただきました。その後、審議に入り、第1号議案から第5号議案まで全議案、満場一致で可決・承認されました。また本総会では定款18条、19条および役員選挙規約に基づき役員補充選挙が行われ、可決・承認された後、臨時理事会によって会長理事に浅田克己・コープこうべ組合長理事が就任し、理事に山田多美子・生協都市生活常任理事、登善彦・神戸市民生協専務理事、山路鐵男・兵庫県労働共済生協専務理事が就任、監事に得納孝臣・兵庫県労働者住宅生協常務理事が就任いたしました。



<http://www.co-op.or.jp/jccu/>



行事予定

JF兵庫漁連	
7月11日(月)	13:30~ 資源環境保全委員会 (中会議室)
19日(火)	組合長懇談会
20日(水)	豊漁祈願祭 (JF神戸市)
8月1日(月)	9:30~ 職員採用試験 (中会議室) 11:00~ 理事会 (中会議室)
25日(木)	定例理事会 (予定)

JF兵庫信漁連	
7月13日(水)	農林漁業統計協会総会
22日(金)	13:00~ 理事会 (中会議室)
8月26日(金)	13:00~ 定例理事会 (予定)

JFぎよさい兵庫	
8月15日(月)	事務所休業

JF共水連兵庫	
7月20日(水)	総代会 (東京)
21日(木)	全国表彰大会 (東京)
29日(金)	地区推進協議会総会 (東浦10:00~・南浦15:00~)
30日(土)	15:00~ 近畿ブロック職員交流会 (大阪)

基金協会	
7月26日(火)	16:00~ 理事会 (ポトピアH)

内海漁保	
7月25日(月)	漁船保険経営対策委員会 (東京)
28日(木)~30日	役員・総代研修会・海上安全祈願祭

但馬漁保	
7月12日(火)~13日	山陰・山口地区漁船保険協議会 (鳥取)
28日(木)~29日	13:30~ 事務研修会 (城崎)

漁港協会	
7月15日(月)	14:30~ 役員会 (林業会館)

兵庫県	
7月15日(金)	10:30~ 常任委員会
22日(金)	13:30~ 内水面漁場管理委員会 (県民会館)
25日(月)	13:30~ 但馬海区漁調委 (但馬漁業センター)
26日(火)	13:30~ 平成17年度政策提案会

<変更になる場合があります>

第6回

全国カキ・サミット兵庫大会開催

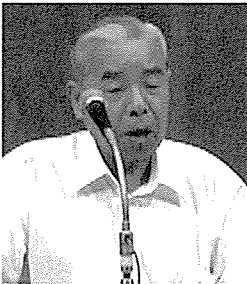
日時 ◎ 平成17年7月2日(土)

於 ◎ 赤穂市文化会館(ハーモニーホール)

去る、平成17年7月2日(土)、赤穂市文化会館(ハーモニーホール)において「第6回全国カキ・サミット兵庫大会」が、全国及び県内のカキ養殖生産者並びに漁業関係者ら約600名参加のもと盛会に開催されました。



歓迎の挨拶を述べられる豆田赤穂市長



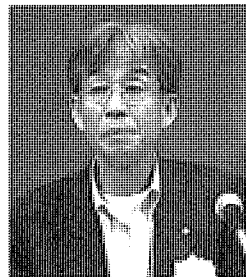
主催者代表挨拶に立つ前田大会委員長

大会は、初めに豆田赤穂市長が歓迎の挨拶、続いて前田大会委員長が主催者代表挨拶を行いました。また、来賓として田原水産庁長官(代読)、齋藤兵庫県副知事、植村全漁連会長(代読)が祝辞を述べられ、最後に主催県漁業系統団体を代表して丸一兵庫県漁連会長が挨拶を行いました。本大会では、昨年に決まったカキの日「11月23日」の制定を改めて宣言しました。

その後、イオン(株)南谷和彦氏により「小売業としての水産物の仕入れと販売」のテーマで基調講演が行われ、引き続き、兵庫

全国カキ・サミットは、平成7年の宮城大会を皮切りに2年に一度、全国のカキ生産県においてカキ養殖生産者及び漁業関係者を一堂に会し開催されているもので、第6回を迎える今年は本県での開催の運びとなりました。

大会は、初めに豆田赤穂市長が歓迎の挨拶、続いて前田大会委員長が主催者代表挨拶を行いました。また、来賓として田原水産庁長官(代読)、齋藤兵庫県副知事、



主催県漁業系統団体を代表して挨拶した丸一兵庫県漁連会長

県立水産技術センターの廣瀬普及部長が司会を務め、岡野氏(三重県JF鳥羽磯部常務)、小野氏(JF宮城漁連企画検査室長)、川崎氏(広島県JF地御

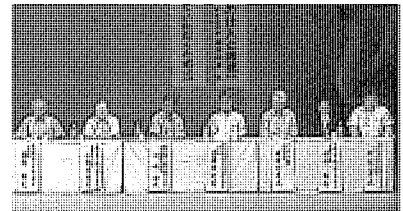


基調講演をされた南谷和彦氏

前青年部カキ養殖部会長)、富田氏(兵庫県JF赤穂市青壮年部長)、南谷氏(イオン(株))、前林氏(JF全漁連漁政部次長)、中村氏(兵庫県農林水産課水産業専門技術員)の7氏をパネリストに迎え、「美味しいカキを安心して買っていただくために」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

その後、兵庫県カキ生産者協議会の岩本会長が、①漁場環境保全 ②徹底した衛生管理 ③国内産カキの消費拡大と情報発信 ④相互交流を図り活力ある生産地づくりの以上4項目を大会宣言として採択し、次回開催県である宮城県より小野寺氏(JF宮城漁連常務)が次回大会の参加を呼びかけ、最後に坂田大会副委員長が閉会の挨拶を行い会を締めくくりました。

最後になりましたが、本大会実行委員会事務局より、大会開催においては開催地区である西播地区はもとより、県内全域の漁業関係者の方々に多大なご協力を頂きましたことを謹んでお礼申し上げます。



パネルディスカッション「美味しいカキを安心して買っていただくために」のパネリスト陣

編集後記

7月に入り、益々暑さが増してきた今日この頃ですが、皆さんは夏バテされておられませんか？食欲に関しては他の追随を許さない小生ですが、最近幾分、固形物より流動物を口にする回数が増えてきております。いっそのままダイエットできれば…

豊かな海を守り、「由良の魚」というブランドを作り出す



No.27

JF東由良町



パーチとロゴマーク



大阪湾で唯一自然な海岸が残る洲本市由良。「目を閉じて歩いたら漁師にぶつかる」というぐらい、町のほとんどの人が漁業に関わる、まさに漁師町です。潮流が早く、きれいな水が差すこの辺りの海域は、大阪湾では少なくなっている海藻や小さなエビ、カニなどのエサが多く、大変恵まれた豊かな漁場です。この豊かな漁場で育つ由良の魚のおいしさは皆さんご存じの通りですが、海の豊かさに甘えるのではなく、豊かさを守るための努力を続けてきたのがこの東由良町漁業協同組合です。



さて、東由良町漁業協同組合の中心漁法は、小型底曳き網漁です。恵まれた由良の漁場では、時期によっては水族館以上といわれるほど多種多様な魚が獲れます。しかし、あまりに多くの魚が獲れることから、逆に「由良の魚」と呼べる象徴的な魚種がないというのが悩みの種です。そこで、東由良町漁協を含む、由良町漁業協同組合連合会では、「由良の魚」

をアピールするためにさまざまな知恵をしぼっています。まず、魚を入れる発砲スチロールとパーチに由良町漁業協同組合連合会の「ロゴマーク」を入れる計画が、間もなく実施されます。由良の港で水揚げされた魚にのみこのマークをつけることで、他で獲れた魚と差別化することができ、どこに出荷されても「由良の魚」であることが一目瞭然となります。さらに、「海水氷」を使用する要望書を市と県に提出し、補助事業への認定を申請中です。現在使用している「真水氷」を魚に当てると、魚が弱るうえに変色し、傷みも早くなります。それに比べて海水氷は、組合員へ安く提供できるほか、効きも抜群で、魚を新鮮に保ちます。兵庫県で初めてとなる海水氷の使用が実用化されれば、魚の鮮度はさらに増し、「由良の魚」の評判を高め、価値をあげられることでしょう。

さて、このように漁業発展のためのさまざまなアイデアを実行中の東由良町漁業協同組合では、今年4月に関係協力組織を一新しました。婦人部長に加田千代子さん、青年部長に加田泰治さん、由良町3組合の連合組織である底曳き部会長に船越寛二さん。この役員と組合員の更なる協力により、東由良からまた新しい漁業の風が吹きそうです。



まず、土曜と火曜を完全に休日とする週休2日制を5年前から取り入れています。漁に出る回数が多くなるとどうしても海が荒れることから、漁に出ない日を作り、海を休ませているというわけです。また、魚が獲れすぎると価格が下落することから、価格調整の意味合いもあります。サラリーマン以上ともいえるこの休日は、組合員の体と海に休息を与え、魚の価格を安定させるという3つの効果をもたらしているのです。

また、30年ほど前から続けているのが、魚の中間育成です。現在はマダイ、クルマエビ、ヒラメ、オコゼなど、多くの魚種がその対象となり、組合の事業として定着しています。加えて、近年激減しているマコガレイを増やすための方策として、昨年から人工授精にもチャレンジしています。産卵期のメスの卵を取り出し、人工的にオスの精子と合わせると、約半数の卵が孵化するという実験結果を受け、今年の冬から本格的に人工授精した卵の放流が始まりました。成果が見えてくるのはまだ数年先ですが、人工授精した卵のうち1%でも育ててくれれば、と東由良町漁協では期待を寄せています。さらに、この取り組みが他の漁協にも広がっていけば、海は今よりもっと豊かになるはず。そのためにも先陣を切る東由良町漁協の役割は大きいのです。

<漁協メモ>

東由良町漁業協同組合
代表理事組合長 森下 登
組合設立日：昭和24年7月14日
組合員数：正組合員169名、
准組合員1名/計170名



招 TAKUSUI
7 July

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会 発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金
〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1 TEL 078-652-3444 FAX 078-671-6685
URL <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>